

表1 2018年度詳細環境調査検出状況・検出下限値一覧表

物質調査番号	調査対象物質	水質(ng/L)		底質(ng/g-dry)		大気(ng/m <sup>3</sup> )	
		範囲 検出頻度	検出 下限値	範囲 検出頻度	検出 下限値	範囲 検出頻度	検出 下限値
[1]	アルキルベンゼンスルホン酸（アルキル基は直鎖状で炭素数が10から14までのもの。）及びその塩類（別名：LAS（アルキル基の炭素数が10から14までのもの。）及びその塩類） <sup>注4</sup>			nd~8,500 11/25	120 <sup>注5</sup>		
	[1-1] 直鎖デシルベンゼンスルホン酸及びその塩類			nd~62 9/25	8.9		
	[1-2] 直鎖ウンデシルベンゼンスルホン酸及びその塩類			nd~1,000 8/25	38		
	[1-3] 直鎖ドデシルベンゼンスルホン酸及びその塩類			nd~2,600 11/25	40		
	[1-4] 直鎖トリデシルベンゼンスルホン酸及びその塩類			nd~4,700 13/25	32		
	[1-5] 直鎖テトラデシルベンゼンスルホン酸及びその塩類			nd~620 16/25	2.0		
[2]	2-(4-エトキシフェニル)-2-メチルプロピル=3-フェノキシベンジルエーテル（別名：エトフェンプロックス）	nd 0/25	2.2	nd~19 14/16	0.14		
[3]	クロロ酢酸及びその塩類	nd~100 3/24	29				
[4]	N,N-ジメチルホルムアミド <sup>注4</sup>	nd~410 13/25	59				
[5]	チオシアン酸及びその塩類	2.5~120 24/24	1.1				
[6]	中鎖塩素化パラフィン類（アルキル鎖の炭素数が14から17までで、かつ、塩素数が4から9までのもの。）	nd~140 3/23	20 <sup>注5</sup>	nd~6,000 18/23	27 <sup>注5</sup>		
	[6-1] 塩素化テトラデカン類（塩素数が4から9までのもの。）	nd~47 8/23	5.5 <sup>注6</sup>	nd~3,100 19/23	7.5 <sup>注6</sup>		
	[6-2] 塩素化ペンタデカン類（塩素数が4から9までのもの。）	nd~37 5/23	4.6 <sup>注6</sup>	nd~1,800 19/23	4.7 <sup>注6</sup>		
	[6-3] 塩素化ヘキサデカン類（塩素数が4から9までのもの。）	nd~30 2/23	5.8 <sup>注6</sup>	nd~750 15/23	7.8 <sup>注6</sup>		
	[6-4] 塩素化ヘプタデカン類（塩素数が4から9までのもの。）	nd~22 2/23	3.9 <sup>注6</sup>	nd~480 15/23	5.7 <sup>注6</sup>		
[7]	ヒドラジン <sup>注4</sup>			0.27~15 20/20	0.0096	nd~0.65 2/15	0.33
[8]	(1-ヒドロキシエタン-1,1-ジイル)ジホスホン酸及びその塩類	nd 0/24	3,300				
[9]	3-フェノキシベンジル=3-(2,2-ジクロロピニル)-2,2-ジメチルシクロプロパンカルボキシレート（別名：ペルメトリン）	nd 0/25	0.31	nd~32 14/18	0.22		
[10]	n-ヘキサン <sup>注4</sup>	nd~12 1/25	10	nd 0/21	1.1		

(注1) 検出頻度は検出地点数/調査地点数（測定値が得られなかった地点数及び検出下限値を統一したことで集計の対象から除外された地点数は含まない。）を示す。1地点につき複数の検体を測定した場合において、1検体でも検出されたとき、その地点は「検出地点」となる。

(注2) 範囲は全ての検体における最小値から最大値の範囲で示した。そのため、全地点において検出されても範囲がnd~となることがある。

(注3) は調査対象外の媒体であることを意味する。

(注4) 排出に関する情報を考慮した地点も含めて調査した。

(注5) アルキル基の炭素数別の検出下限値の合計値である。

(注6) 塩素数別の検出下限値の合計値である。